



和かっぱ

2月もそろそろ終わりが近づいてきました。まだ寒さが厳しい日が続いていますが、春の暖かさが待ち遠しいばかりです。

ちなみに、今月号はひな祭りをイメージした紙面に仕上げました。子供たちの健やかな成長を願う楽しい一日になってほしいですね。



出典：イラストストック

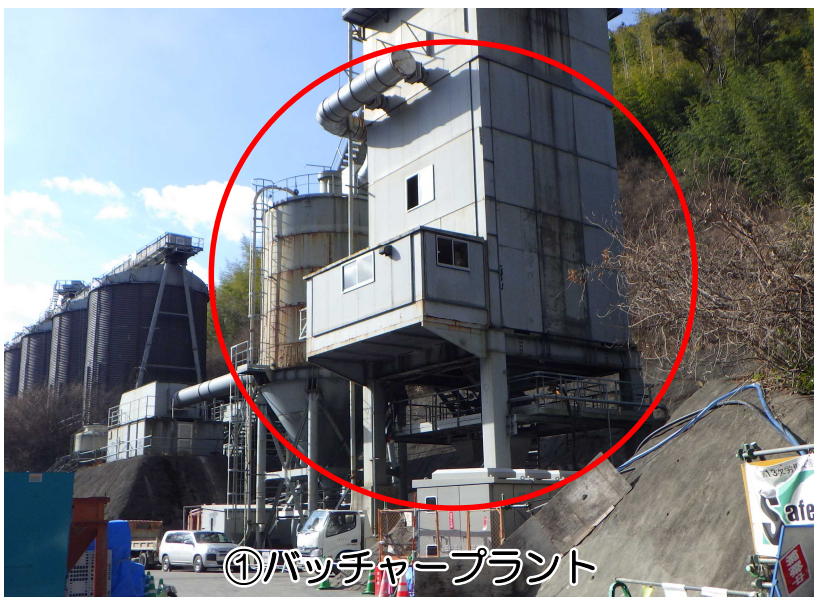
和食ダム 現在の作業について

これまでに引き続き左岸側の掘削を行ってきましたが、掘削も残りわずかとなってきました。現場では、堤体コンクリートの再打設に向けた準備も平行して進めています。今回は、「1) コンクリートの実機試験練り」「2) 仮設防護柵の撤去」をご紹介します。

1) コンクリートの実機試験練り

実機試験練りは、実際に使用する機械（バッチャープラント）でコンクリートを練り、品質が確保できているのか確認するために行います。

作業内容は、まず写真①のバッチャープラントでセメントや水などを練り混ぜてコンクリートを作ります。出来上がったコンクリートは、スランプ値（コンクリートの流動性を示す値）や空気量を測定して品質を確認します。その後、写真②のとおりサンプル（供試体）をいくつか採取して、コンクリートが硬化した状態での強度を確認します。



①バッチャープラント



②供試体の採取

2) 仮設防護柵の撤去

仮設防護柵は、左岸再掘削時に落石が発生した際、堤体を保護するために設置しています。現在掘削標高が75mまで下がり、落石のおそれなくなったことから打設済の堤体の状態を確認するため写真③のように撤去を行っています。

撤去はタワークレーンやラフタワークレーンを使用し、鋼材を一本ずつ吊って撤去していきます。



③仮設防護柵の撤去作業

引き続き、安全に配慮しながら工事を進めていきますので、皆さまのご理解、ご協力をお願いします。



芸西村の史跡紹介 (第32弾)

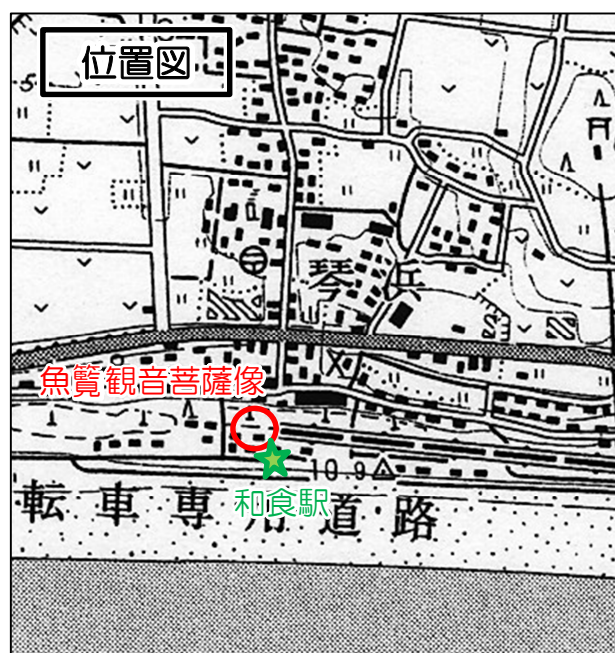
和食駅の近くには、四百年ほど前から魚籠観音ぎょらん かん のんと呼ばれる石像があります。

言い伝えによると、その昔、豊臣秀吉に追われた紀州根来衆が土佐に逃れてくる途中に嵐に遭い、守護して来た観音さまが海中に沈んでしまいました。数年後その石仏が漁師の網にかかり、それを魚籠観音として祀ったところ、今までの不漁が急変して豊漁が続いたそうです。その後、毎年縁日にはご利益を求めて遠くから参拝者が押し寄せ、たくさんの人で賑わっていたそうです。

天正十七年(1598)に調べられた「長宗我部地検帳」には、和食地区に2体の石像(絵堂観音、浜観音堂)があったことが記載されていますが、現存している魚籠観音はそのどちらかに該当すると考えられているようです。

もし魚が釣れなくて悩んでいる釣り人がいれば、ぜひ一度参拝してみてくださいはいかがでしょうか。(大漁になるかも・・・)

出典：芸西村教育委員会 芸西歴史散歩(平成17年)より



編集後記「ダム事務所のつばやき」

中国には「一時間幸せでいたいなら酒を飲め。三日間幸せでいたいなら結婚しろ。一生幸せになりたかったら釣りを覚えろ」ということわざがあるそうです。

私も幸せになりたいとばかりに、一年中宇佐沖で真鯛を狙っているのですが、これが思う様には釣れないのです。

今では釣れない言い訳もネタ切れとなり、嫌でも「己の腕の未熟さ」を認めざるを得なくなってきました。

そのため、取材の際には素直に魚籠観音菩薩に手を合わせてきました。これで豊漁は間違いなしです。(笑)

【職員B】

